

失われ行くものを遊びながら守る 「削ろう会」に参加して

長野県立上松技術専門学校 上條 勝

はじめに

「鉋削り」と聞いて、皆さんは何を思うでしょうか？昔と違い、日常生活ではほとんど見かけなくなり、失われ行く道具かもしれません。この鉋削りも、極めていくと削り肌が鏡のように景色が映るまでになります。職人仲間が集まって、どれだけ薄く削れるか競いながら、遊んでいる会があります。

会の名を「削ろう会」といいます。私は、あるきっかけでこの会に参加するようになり、いろいろな方と知り合うことができました。会に参加して感じていること、その活動のあらましをお知らせします。

私 事

私は、訓大（現 職業能力開発総合大学校）14期木材加工科の卒業で、長野県に入り木材工芸科・木工科の指導員等として20年あまり過ぎました。仕事のかたわら、刃物に興味を持ち、岩崎航介著「刃物の見方」に刺激され、学校にあった金属顕微鏡で刃物の組織を見ながら研いだり、削ったりしていました。

彫刻刀や大工道具を求めするため、道具店を訪ね、それでは収まらず直接、鍛冶屋に注文したりもしました。各地の鍛冶屋も訪ね、特に興味を持ったのはなぜか「鉋」でした。

ちょうど、白崎秀雄著「千代鶴是秀」が刊行され、その世界に魅力を感じたのかもしれませんが。あるいは、学生時代に毎日グラフに連載され、その後発刊された村松貞次郎著「道具曼陀羅」（正・続・続々・新）を見ていたせいかもしれません。

やはり、鉋を調整しての削りは楽しく、玄人で削りにこだわる人、鉋を収集して楽しんでいる人、素人ながら玄人顔負けの削りをする人たちと巡り合ったり、鍛冶といかに切れる刃物を作るかなど試作品を繰り返し作ったりしました。ここ10年くらいは鉋の台打ちを覚え、五寸五分鉋刃を求め、台もそれ用に何台も打ちました。そんなわけで、平台鉋は何十台にも増えてしまいました。

削ろう会への初参加

そんな頃、鉋削りの大会があるから行ってみようという仲間から知らせがあり、第2回の削ろう会のため平成9年秋に福井へ出かけ、全国のいろいろな方とお会いしました。

個人的にも薄削りに興味を持ち、伊勢神宮遷宮の



尺鉋と私

大鉋削り屑を見せてもらい、まねごとをしていたのですが、計測もせいぜい100分の1のマイクロメーター程度でした。ところが、この会に行ってみると岡山鉋塾の皆さんが1000分の1のマイクロメーターで、切り屑を計測し、研ぎあがった刃先を200倍に投影して見せ、実際に永切れ試験（延べ切削長試験：10ミクロン厚で、300尺～800尺程度）を行いそれをデータとして発表したり、天然砥石について各鉋山・砥石層ごとに収集・分析して、その研ぎ味を試したりしていました。

私も天然砥石の種類や生成・特性など知らないことを教えていただいたり楽しく過ごすことができました（鉋を研ぐには、京都梅ヶ畑奥殿敷巢板層・オクドシキズイタが良いと思いますが30年ほど前に鉋山を閉じ、いまでは幻と呼ばれています）。世の中の広さを思いました。



削ろう会会報

削ろう会の仲間

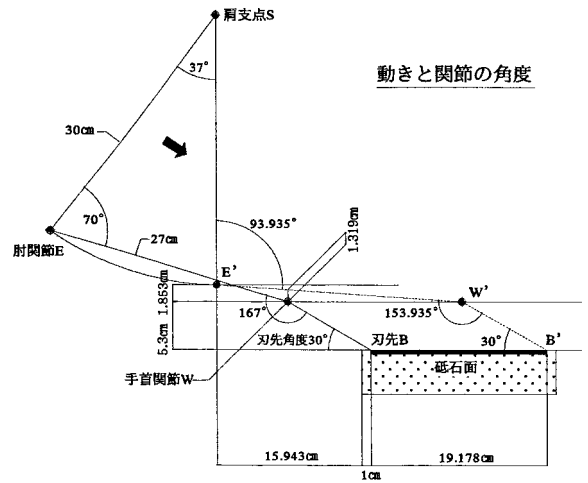
それぞれが違う職業ながら、道具にこだわる点でつながっており、以来、仲間の輪はますますひろがりました。堂宮大工で千代鶴是秀・石堂秀一はじめ名品の数々を持ち、実際に削って楽しんでいる人、外科医で鉄の会に所属し、指物・木彫刻・漆までこなし、たくさんの大工道具・砥石を収集している人がいます。デザイナーで鉋削りを50年も研究して本まで出す人、大工棟梁で道具の歴史について研究し、中国やエジプトまで出かけていってしまう人もいます。

工務店会長で大工道具や墨壺・瓦を研究・収集し、資料館まで作ってしまった人、砥石販売業者で自らも研ぎができ目利きの人などこだわりのある人ばかりです。私が教科書として使用していた「図解木工技術」の著者佐藤庄五郎先生は90歳を超え、元気で二度も会場に見えられ、私の鉋を引いていただいたことも印象深いです。もちろん、いろいろな鍛冶職の方と知り合えたこともありがたいです。

私は、大鉋を持っていたこともあり大鉋削りを中心に会に参加してきて、平成12年9月の新潟与板第8回削ろう会では、尺鉋および八寸鉋の台を打ち、研ぎあげ、なんとか削ることができました。

削ろう会の誕生

「削ろう会」は、平成9年2月名古屋の浅草屋工務店社長、宮大工杉村幸次郎氏が呼びかけて発足しました。中心となったメンバーは、毎年開かれる竹



研ぎについての研究（腕の動きと関節の角度）

中大工道具館・島根県吉田村の鉄のシンポジウム等で顔を合わせる鍛冶屋や大工はじめ大工道具愛好者でした。

仲間うちで削り大会をやろうと第1回を計画したところ50名余りが集まり、回を重ね平成12年末で六百数十名の会員数となっており、ますます会員が増えそうです。

参加者は堂宮大工・数寄屋大工・家大工を中心として家具職・建具職等の木工関連職、鍛冶職（鉋・ノミ・鋸・包丁・ナイフ等）、台打ち職、砥石屋、研ぎ職、材料店、大工道具店、鋼材メーカー、大学関係研究者、他大工道具愛好者などさまざまで、玄人・素人・女性も取り混ぜて若手が多いのがうれしく思われます。

削ろう会の内容

会の名前のとおりいかに薄く削るかがメインで楽しみながら遊んでいる会なのですが、薄く削ることに付随して鋼の質、刃物の熱処理の正否、研ぎの精度、砥石の正否、台の管理、材料の適否、削り手の腕前等いろいろな要素があると思います。薄く削るためには、これらを総合的にいかに高めるかにかかっています。

全国各地から集まった人たちが情報交換をしながら腕を磨き、競い合うため、当然、各自自慢の鉋・砥石等を持参して集まりますが、事前の道具の手入れ・工夫等準備は相当な熱の入れようです（目の輝きが違います！）。

また、鉋削りだけでなく、砥石・研ぎ・大鋸・槍鉋・ちょうな・まさかり・鍛冶技術・鋼製造・伝統木造工法にまで実演がなされ、技能講習・研究発表も実施されています。

これまでに、国内では8回の大会が開催されていますが、12年夏にはカルフォルニア州パークレーで開催され、米国大工の腕に感心しました。13年夏もハワイでの開催が予定されています。

国内の9回目の開催地は、岐阜市で13年3月24/25日に行われた。

この会では、削り屑があまりに薄いので「削り華」と呼んでいます。削り材は、檜・ひば・杉の薄削り



地元直井棟梁と永六輔氏の前で七寸鉋によりひば材五寸角10m材を引く

第7回武生大会の様

向きのものを中心として檜・桜の中硬木、黒檀・白太・空材などの難削材もそろえ、幅・長さも地元組合・棟梁たちの準備で毎回いろいろとそろっています。

なお、2日ばかりなので初日の夜は懇親会が毎回開催され、夜遅くまで情報交換がいろいろと行われ、大変盛り上がるので楽しみの1つになっています。

さらに、会報を発行しており、これまでに16号を発刊しています。この会報には会員が寄稿した情報が多岐にわたり掲載され、内容のレベルはかなり高いと評価されています。

削ろう会が目指すもの

この会の開催を通して、職人の交流、技の向上・研究、失われて行く技能の継承保存、後継者の育成等が、遊びの集まりの中で何となく形を作っているように思われます。

老棟梁にいろいろ聞く若い大工があちこちで見られ、全国から集まる職人が流儀を超えて新しい知識を得て（「技を盗む」もあり）、技の向上への工夫・熱気がいつも感じられる会場です。

また、鍛冶職が使い手と直接話し、刃物の切れ味向上を目指し協力しあっている姿も見られたり、昔

- ・第1回 平成9年2月22/23日
名古屋市 浅草屋工務店工場 参加者53名, 内容:
砥石の話, 日本砥石調査会・長原政則氏, 大鉋・平
鉋・槍鉋削り, 削り屑測定...記録9ミクロン
- ・第2回 平成9年9月27/28日
福井県武生市ポリテクセンター福井 参加者120名,
内容: 砥石の話, 鉋銘柄削り長さの研究発表, 削
り大会, 刃先の拡大画像紹介, 研ぎ講習, 削ろう会
はんでん製作
- ・第3回 平成10年3月7/8日
奈良県立高等技術専門学校 参加者168名, 内容: パ
ネル討論...道具鍛冶とユーザー・砥石とユーザー,
各種鋼材別研究発表, 各自鉋刃組織拡大提示(400
倍), 削り大会, 削り屑測定...記録3ミクロン
- ・第4回 平成10年9月26/27日
愛知県豊橋市豊橋職業訓練センター 参加者178名,
内容: 三河白生産者深溝氏の話, 三河白の販売・研
ぎの講習・道具の見方講習および鑑定・砥石の見方
および鑑定, 各種大工道具販売と名品展示, 鉋削り
大会, ちょうな・まさかり・前挽き大鋸実演, 削り
大会, 削り屑測定...記録4ミクロン, 削ろう会印鉋
製作(青紙1号および白紙1号)
- ・第5回 平成11年3月27/28日
大阪府立松原高等職業技術専門学校 参加者200名,
内容: 鋸鍛冶の話, 鋸の目立てと解説, 大突ノミの
研ぎ実演, 名品砥石撮影会, 各種大工道具販売, 研
ぎ200倍顕微鏡投影装置, 削り大会, 削り屑測定...
記録7ミクロン
- ・第6回 平成11年9月25/26日
名古屋港ガーデン埠頭20号倉庫 参加者250名, 名
古屋市主催イベント「アートポート99」実験活用プ
ログラム, 内容: 基調講演, 子供大工塾, 子供鉋塾,
和鉄造り実演, 和釘造り実演, 鋸目立て実演, 大工
道具見本市, 木挽き実演, 砥石持ち上げ競技, 削り
大会, 削り屑測定...記録4ミクロン, 削ろう会T
シャツ製作, たけしの万物創世記「大工」で削ろう
会登場, 小学生男子将来になりたい職業 1に大工が
選ばれる, 子供塾開催
- ・第7回 平成12年3月18/19日
ポリテクセンター福井 参加人員延べ550人, 内
容: 鍛冶・白鷹幸伯氏および刀匠・大野兼正氏講
演, スーパー刃(炭素鋼系粉末鋼), 製造者・鍛冶
職・使用者の意見発表, 子供大工塾, 鋸目立て, 研
ぎ講座, 下端定規品評会, 木挽き実演, 永六輔氏来
場, 名品大工道具展示, 福井テレビ1時間番組制作,
地元直井光男棟梁準備の15m材他多数並ぶ
- ・第8回 平成12年9月23/24日
新潟県与板町町民体育館 参加人員延べ1000人, 内
容: 工場見学(鉋・ノミ・形変わり鍛冶工場), 村
の鍛冶屋実演, 研ぎ講座, ちょうな・槍鉋・木挽
き・鉋台打ち, 伽藍彫刻実演, 大工道具販売, 刃物
製造ビデオ上映, 大鉋多数集合, 尺鉋削り, 前後2
枚刃鉋登場, 削り大会, 削り屑測定...記録6ミク
ロン, 米国大工の参加
削り屑厚のばらつきは, 測定者と装置が異なる要
素が多いと思われます。

削ろう会の経過

はあった鍛冶屋への細部にまでわたるうるさい注文も聞こえてきます。

電動工具全盛で, 当然これを使っている者たちが, この会に参加することで, 従来の大工道具の技術が失われないよう手道具の良さ・日本古来の職人の心意気を見直すために機能しているのを見て, 心強く思っています。

おわりに

IT(情報技術)ばかり言われる昨今ですが, 日本最古の宮大工集団・金剛組は現当主が39代目で千数百年続いていることに代表されるように, 日本の伝統建築を守るべく各地で頑張る棟梁はじめ, これを支える各職がいることを忘れないでいたいし, ぜひこれからも各職ともども残したいと思います。

自動車と同じように, 新工法や見かけの良い建築の宣伝ばかりが目につきますが, 日本人は自国の文

化を見つめ直し, 伝統建築の住宅に目を向け, 地域の状況を良く知る地元の工務店に依頼して, 良質の仕事を確認し長く住んでもらうことが, これら一連の技術・技能の継承・保存につながり, 長い伝統の火をこれからも消さないことになると思うこのごろです。

「削ろう会」の様子等は会員が作成した次のホームページで紹介されていますので, 興味をお持ちの方はのぞいてみてください。

<http://www3.ocn.ne.jp/tac7/>
<http://www.asahi-net.or.jp/la7m-ash/kezuroukai0009/kezuroukai.html>
<http://www2.odn.ne.jp/oak/yoita-kezuroukai.htm>
<http://www.ash.ne.jp/okino/hori/kezurou.htm>

「削ろう会」事務局 杉村幸次郎
 〒451-0053 名古屋市西区枇杷島1-6-51
 FAX:(052) 521-7440
 e-mail: suginoko@mb.i-chubu.ne.jp